

第1部

13:00~15:20

開会式

13:00~13:20

開会挨拶: 龍谷大学長 若原 道昭(わかはら どうしょう)
ご来賓ご挨拶: 浄土真宗本願寺派第24代ご門主 大谷 光真(おおたに こうしん)氏
(財)全日本仏教会前会長、(財)全国教諭師連盟総裁
主著: 『朝には紅顔ありて』角川書店、『世のなか安穏なれ』中央公論社他

研究発表

13:20~15:20

「あらゆるいのちの共生と非暴力」

各センターからの研究成果報告

- 古典籍デジタルアーカイブ研究センター
○情報通信システム研究センター
○矯正・保護研究センター
○アフラシア平和開発研究センター
○人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

休憩

15:20~15:35

第2部

15:35~18:30

特別講演1

15:35~16:45

「慈悲と非暴力—ダライ・ラマとの対話」

上田 紀行(うえだ のりゆき)氏

文化人類学者、東京工業大学大学院准教授、博士(医学)
主著: 『生きる意味』(岩波新書)、『かけがえのない人間』講談社現代新書、『がんばれ仏教!』NHK ブックス、
『目覚めよ仏教!ダライ・ラマとの対話』NHK ブックス他

レスポンス 鍋島 直樹(なべしま なおき)氏

人間・科学・宗教シンポジウム実行委員長、
人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター長、法学部教授

休憩

16:45~17:00

特別講演2

17:00~18:15

「非暴力の有効性—ガンディーの運動が語るもの」

長崎 暢子(ながさき のぶこ)氏

東京大学名誉教授、龍谷大学名誉教授、龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター研究フェロー、博士(文学)
(主著): 『ガンディー—反近代の実験』岩波書店 1996、『インド大反乱』中公新書 1981、『インド独立—逆光のなかのチャンドラ・ボース』朝日新聞社 1989、『インド国境を超えるナショナリズム』岩波書店 2004、(主編著): 『現代南アジア: 地域研究への招待』東大出版会 2002、『資料集インド国民軍聞き書き』、同『資料集インド国民軍証言』研文出版 2008 他

レスポンス 武田 龍精(たけだ りゅうせい)氏

龍谷大学名誉教授 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター研究フェロー、文学博士

閉会の辞

人間・科学・宗教シンポジウム(第2回目)「共生と持続可能性のある世界をめざして」は、2010年2月13日(土)を予定しております。

人間・科学・宗教シンポジウム(第二回) 「非暴力と共生の世界を願って」

龍谷大学創立370周年記念事業
人間・科学・宗教総合研究センター 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業採択プロジェクト連携合同企画



※文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業」は、2008(平成20年度より)私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として実施されています。

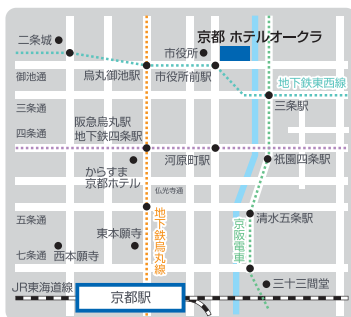
会期: 2009年12月8日(火)

13:00~18:30

会場: 京都ホテルオークラ4階 暁雲の間

※入場無料 ※事前申し込みが必要となります。定員300名(申し込み方法は裏面)

お申し込み多数の場合、抽選となります。



会場: 京都 ホテルオークラ
〒604-8558 京都市中京区河原町御池
TEL 075-211-5111 Fax 075-254-2525

アクセス: 地下鉄東西線「京都市役所前駅」直結。(JR「京都駅」より地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」乗換。地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車ホテル地下2階と直結) JR京都駅よりタクシーで約15分。

人間・科学・宗教シンポジウム(第一回)

「非暴力と共生の世界を願って」

【開催趣旨】

現代世界は、さまざまな場面で攻撃的になっている。正義や原理主義をふりかざす戦争やテロ、想像しえなかったような事件や犯罪が毎日の報道に繰り返されている。職場や学校でも言葉やメールによる中傷が後を絶たず、さらにはDVと呼ばれる暴力も横行している。それら暴力が生まれる背景には、貧困や飢餓、差別や虐待などの排除の現実があるだろう。誰にも認められないという虚しさから暴力が起きているのかもしれない。

釈尊は、「怨みに報いるに怨みをもってしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である。」(ダンマパダ第5偈)と説いた。親鸞もまた、「念仏せんひとびとは、かのさまたげをなさんひとをばあはれみをなし、不便におもて、念仏をもねんごろに申して、さまたげなさんを、たすけさせたまふべし」(御消息集9)と記し、弾圧者を敵対視せずに、迫害を行う人たちに慈悲をかけよと説いている。ノーベル平和賞を受賞したダライ・ラマ14世(14th Dalai Lama)は、「今日私たちが直面する暴力、自然破壊、貧困、飢えなどの諸問題は、人間が作り出した問題です。ですから、努力や相互理解、また人類愛を育むことによって解決が可能です。私たちは、お互いに対しても、また一緒に暮らすこの惑星に対しても、宇宙的な責任感を養う必要があります。仏教では敵すらも愛し、慈悲の心をもてと教えています。信仰の有無に関わらず、誰でも温かい心と宇宙的な責任感を育てることはできます」(ノーベル平和賞受賞スピーチ 1989年ノルウェー・オスロ)と語っている。心に平和を培い、非暴力と寛容さを身に纏うことが、世界に求められているだろう。

この「非暴力と共生の世界を願って」のシンポジウムにおいては、「人と人との共生の在り方」に焦点をしぼる。人は誰しも幸せになることを願って生きている。誰も苦しみを求めてはいない。戦争や虐待の原因は、相手に対する無知と自らの利己心にある。人は誰からも愛情を受けずに冷遇されると自信を失う。そして、人からの攻撃を受けて大切なものを失い、信じられるものがなくなると、自己も相手の存在も希薄になり、自殺を試み、暴力をふるうようになる。人はすさんだ状況によってはどんな恐ろしいことも犯してしまう心の暗闇を有していることに気づいていく必要がある。争いをなくす道は、武力による鎮圧ではなく、貧困や飢餓に対する手厚い保護と愛情であり、子どもたちが男女の区別なく等しく教育を受けられるようにすることであり、寛容さと忍耐を持って相手に接し、対話を継続しながら、相互に理解しあい、共生していくことだろう。

龍谷大学の学術研究高度化推進事業では、あらゆるいのちの共生を考えるために、ベゼクリク石窟寺院壁画や大谷探検隊将来品など世界的な文化遺産をデジタルアーカイブとして保存・復元・公開する研究(古典籍デジタルアーカイブ研究センター)、世界における武力紛争の平和的解決と異文化理解の探究(アフラシア平和開発研究センター)、21世紀の刑事政策につながる犯罪対策、矯正と更生保護システムの創出(矯正・保護研究センター)、生きとし生けるものへの慈愛と責任と感謝を培う仏教生命観の教育研究(人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター)、地震災害時でも通信できるアドホック無線ネットワーク開発(情報通信システム研究センター)の研究が進められている。このように人と人との非暴力と共生の世界を築くために、仏教の共生観を心の羅針盤とし、諸科学における共生(symbiosis)の知見を結集して、人類の歴史と未来への責任を見据えることが望まれるだろう。

(人間・科学・宗教シンポジウム実行委員長 鍋島直樹)

【受講申し込み方法】

事前にFAX、メール、ハガキにてお申し込みください。郵便番号、住所、電話番号、氏名(フリガナ)、参加希望人数を明記の上、下記宛先までお送りください。

【送付先】〒612-8577京都市伏見区深草塚本町67

龍谷大学研究部(人間総研) 人間・科学・宗教シンポジウム(12/8)担当宛

FAX : 075-645-2240 E-mail : soken@ad.ryukoku.ac.jp

応募締切 : 2009年11月13日(金)消印有効

※申込み多数の場合は抽選となります。当選発表は、聴講券の発送をもってかえさせていただきます。抽選に関するお問い合わせはご遠慮ください。

このまま切り取らずに送信してください

■FAX送信先 075-645-2240■

人間・科学・宗教シンポジウム(第一回)参加申込書

ご住所	〒		
フリガナ		電話番号	参加希望人数
氏名		() -	人

※個人情報の取り扱いについて

ご記入いただいた情報は、個人情報保護法により厳正に管理し、本事業の目的以外には利用しません。